

### 3 事業概要

#### 3.1 環境情報部環境活動推進課

##### 3.1.1 企画調整業務

調査研究の企画調整、研究成果の公表及び環境全般についての普及啓発に関する業務を行った。

#### (1) 調査研究業務の企画調整

平成30年度に終了した調査研究課題について、研究結果説明会を実施した。

また、令和2年度の調査研究課題について、調査研究計画説明会において内部評価を、また調査研究推進委員会による外部評価を行った。

事業名又は項目	概要
ア 結果報告	H30年度調査研究結果報告会をR1.5.14(火)に開催した。
イ 調査研究課題の調整	R2年度の調査研究課題の設定を行った。
ウ 内部評価	R2年度調査研究計画説明会をR2.2.4(火)に開催し、評価を行った。
エ 外部評価	R2年度調査研究課題について、学識経験者4名で構成する調査研究推進委員会(委員長 桜美林大学リベラルアーツ学群片谷教孝教授)をR2.2.27(木)に開催し、計画外部評価を行った。 <評価対象> ①相模湾沿岸域におけるマイクロプラスチックの実態解明(プロジェクト研究) ②神奈川県におけるPM2.5中のタンパク質の実態把握(プロジェクト研究) ③環境DNAを用いた丹沢山地におけるサンショウウオの分布調査手法の開発(地域課題研究)

#### (2) 研究成果の公表

調査研究成果を広く紹介するため、業績発表会及び環境研究合同発表会を開催するとともに、研究報告の発行、学会等への発表を行った。

※ゴシック表記の氏名は、当センター職員であることを示す。

事業名又は項目	概要
ア 環境研究合同発表会	当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」の主催により、環境月間中のR1.6.19(水)に横浜市開港記念会館において、「第43回環境研究合同発表会」を開催した。参加者192人 <当センターの演題> ①相模湾漂着マイクロプラスチックに吸着したPCBの測定(小澤憲司【調査研究部】) ②環境DNAを用いたサンショウウオ調査の試行結果と今後の展開(長谷部勇太【調査研究部】)
イ 業績発表会	R1.10.8(火)にラスカ平塚ラスカホールにおいて、「環境科学センター業績発表会」を開催した。参加者78人 <演題> ①金目川流域におけるネオニコチノイド系農薬等の環境影響(中山駿一【調査研究部】) ②漂着状況調査から得られた特徴的なマイクロプラスチックの一例(菊池宏海【調査研究部】) ③気候変動への適応に向けた県のとりのくみ(篠原才司【環境情報部】) ④空母艦載機移駐後の厚木基地周辺における航空機騒音(横島潤紀【環境情

事業名又は項目	概要
イ 業績発表会	<p>報部】)</p> <p>⑤神奈川県内で採取されたPM2.5に含まれる有機化合物の同定(石割隼人【調査研究部】)</p>
ウ 農林水産系研究機関成果発表会	<p>R1. 12. 17(火)に波止場会館において、農業技術センター、水産技術センター、畜産技術センター及び自然環境保全センターの主催する「神奈川県農林水産系研究機関研究成果発表会」にて、ポスター展示を行った。</p> <p>&lt;当センターの研究展示内容&gt;</p> <p>①神奈川県気候変動適応センターの紹介(篠原才司【環境情報部】)</p> <p>②熱中症対策 - 暑熱への適応 - (篠原才司【環境情報部】)</p>
エ 研究報告の発行	<p>「令和元年版(2019)神奈川県環境科学センター研究報告 第42号」をR2. 3に当センターwebサイトに掲載した。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>①環境騒音に対する苦情行動の因果分析(横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】、矢野隆【熊本大学(名誉教授)】)</p> <p>②ブナ葉における遺伝子発現解析手法の検討及びオゾン曝露による遺伝子発現変化(武田麻由子【調査研究部】、十河孝夫【温泉地学研究所】)</p> <p>③神奈川県におけるネオニコチノイド系農薬等の環境実態(中山駿一、三島聡子【調査研究部】)</p> <p>④ 機器を用いた火山ガス中の有害成分の迅速分析法(十河孝夫【温泉地学研究所】、秀平敦子【大気水質課】、代田寧、星崎貞洋、有田俊幸【調査研究部】)</p> <p>⑤神奈川県の大気環境中における有機フッ素化合物の実態調査(三島聡子、中山駿一【調査研究部】、大塚寛人【神奈川県水道水質センター】、鈴木義浩、財原宏一、千室麻由子【川崎市環境総合研究所】、福崎有希子、北代哲也、志村徹【横浜市環境科学研究所】)</p>
オ 温泉地学研究所の研究報告	<p>温泉地学研究所が発行する「神奈川県温泉地学研究所報告第51巻」(R1. 12発行)に、論文掲載した。</p> <p>&lt;当センターの掲載内容&gt;</p> <p>箱根火山大涌谷北側斜面で2017年に観測された噴気組成(C/S比)の変動(代田寧【調査研究部】、大場武【東海大学】、谷口無我【気象庁気象研究所】、十河孝夫、原田昌武【温泉地学研究所】)</p>
カ 学会等への発表	<p>調査研究成果について、論文等の発表(表3. 1. 1-1、表3. 1. 1-2)を行った。</p>
キ その他	<p>調査研究その他の業績により、職員が令和元年度中に受けた表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R1. 11. 22(金)「全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰」(代田寧【調査研究部】)</li> <li>・ R1. 12. 20(金)「神奈川県知事表彰」(マイクロプラスチック研究チーム【調査研究部】)</li> <li>・ R2. 1. 21(火)「全国環境研協議会会長賞」(三島聡子【調査研究部】)</li> <li>・ R2. 3. 9(月)「神奈川県環境農政局長表彰」(クラウドファンディングを活用した県民参加型調査実施チーム【調査研究部】)</li> <li>・ R2. 3. 19(木)「神奈川県くらし安全防災局長表彰」(箱根山大涌谷園地再開チーム【調査研究部】)</li> </ul>

表 3.1.1-1 論文等発表 (\* : 査読付き)

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
齋藤和久【環境情報部】	渋田川の環境について	渋田川桜堤のあゆみ (渋田川桜まつり20周年記念誌)、58 (2019)
横島潤紀【環境情報部】	建物内における振動測定手法に関する現状と課題	日本音響学会誌、75(5)、274-279 (2019)
大場武【東海大学】、谷口無我【気象庁気象研究所】、西野佳奈、沼波望【東海大学】、代田寧【調査研究部】、鋤柄千穂【東京海洋大学】、伊藤昌稚、角皆潤【名古屋大学】 *	Time variations in the chemical and isotopic composition of fumarolic gases at Hakone volcano, Honshu Island, Japan, over the earthquake swarm and eruption in 2015, interpreted by magma sealing model	Earth, Planets and Space 71:48. doi:10.1186/s40623-019-1027-5 (2019)
小澤憲司、池貝隆宏、三島聡子【調査研究部】	相模湾漂着マイクロプラスチックに吸着したPCB全異性体の測定及び発生源の推定	全国環境研会誌、44(2)、22-28 (2019)
長谷部勇太【調査研究部】、白子智康【いであ(株)】	サンショウウオ類の分布調査における捕獲調査と環境DNA調査の比較	全国環境研会誌、44(2)、29-35 (2019)
池貝隆宏、三島聡子【調査研究部】、小林幸文【環境科学センター】 *	神奈川県沿岸におけるマイクロプラスチック漂流状況の空間的・時間的変動	人間と環境、45(3)、2-14 (2019)
坂本広美、三島聡子、長谷部勇太、菊池宏海、難波あゆみ【調査研究部】、池貝隆宏【湘南地域県政総合センター】	相模湾沿岸に漂着したマイクロプラスチックの実態調査	環境と測定技術、46(10)、3-9 (2019)
石割隼人【調査研究部】 *	神奈川県におけるPM <sub>2.5</sub> に含まれる有機化合物の同定および定量	大気環境学会誌、54(6)、202-213 (2019)
坂本広美【調査研究部】	自治体におけるPRTR情報の活用例と今後	化学物質と環境、158、9-10 (2019)
池貝隆宏、菊池宏海、三島聡子【調査研究部】	海洋マイクロプラスチックの海岸漂着特性～太平洋沿岸と日本海沿岸の比較～	全国環境研会誌、44(4)、29-34 (2019)
鈴木 義浩、財原 宏一【川崎市環境総合研究所】、三島聡子、大塚寛人、中山駿一【調査研究部】、福崎有希子、北代哲也、志村徹【横浜市環境科学研究所】、千室麻由子、井上雄一【川崎市環境総合研究所】	神奈川県の大気環境中におけるクロルデン類の実態調査	川崎市環境総合研究所年報、第7号、52-58 (2019)
池貝隆宏【湘南地域県政総合センター】、三島聡子、菊池宏海【調査研究部】	相模湾沿岸におけるマイクロプラスチックの漂着の特徴	用水と廃水、62(4)、59-66 (2020)

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
茶谷聡【国立環境研究所】、山地一代【神戸大学】、板橋秀一【電力中央研究所】、斎藤正彦【愛媛大学】、滝川雅之【海洋開発研究機構】、森川多津子【日本自動車研究所】、神田勲【日本気象株式会社】、宮由可子【日本気象協会】、小松宏昭【調査研究部】、櫻井達也【明星大学】、森野悠、永島達也、北山響【国立環境研究所】、嶋寺光、浦西克維【大阪大学】、藤原譲【株式会社数理計画】、新谷創磨【神戸大学・大阪大学】、速水洋【電力中央研究所】*	Identifying key factors influencing model performance on ground-level ozone over urban areas in Japan through model inter-comparisons	Atmospheric Environment、223、Article 117255(2020)
坂本広美【調査研究部】、大塚寛人【水道水質センター】、中山駿一、大津岩雄【調査研究部】、朝倉純【工業保安課】	最終処分場の安定化状態の把握について	かながわ環境技術会誌、19、2-7 (2020)
山地一代【神戸大学】、茶谷聡【国立環境研究所】、板橋秀一【電力中央研究所】、斎藤正彦【愛媛大学】、滝川雅之【海洋開発研究機構】、森川多津子【日本自動車研究所】、神田勲【日本気象株式会社】、宮由可子【日本気象協会】、小松宏昭【調査研究部】、櫻井達也【明星大学】、森野悠、北山響、永島達也【国立環境研究所】嶋寺光、浦西克維【大阪大学】、藤原譲、橋本知明【株式会社数理計画】、須藤健悟【名古屋大学】、見崎豪之【神戸大学・東電設計株式会社】、速水洋【電力中央研究所】*	Model Inter-Comparison for PM2.5 Components over urban Areas in Japan in the J-STREAM Framework	Atmosphere、11(3)、222(2020)
三島聡子【調査研究部】、池貝隆宏【湘南地域県政総合センター】	相模湾沿岸及び流入河川のマイクロプラスチック汚染の実態及び有機フッ素化合物の吸着	EICA、24(4)、40-44 (2020)
長谷部勇太、武田麻由子、中山駿一、菊池宏海【調査研究部】、白子智康【いであ(株)】	サンショウウオ類分布調査における環境DNA活用のための基礎的検討	全国環境研会誌、45(1)、38-44 (2020)
三島聡子、小澤憲司、中山駿一、菊池宏海【調査研究部】*	相模湾漂着マイクロプラスチックの有機フッ素化合物の吸着実態と流入河川の影響	環境化学、30、66-81 (2020)

表 3.1.1-2 口頭発表 (\* : ポスター発表)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛施設協会】、矢野隆【熊本大学】	社会音響調査データアーカイブを用いた二次分析の現状と課題	日本騒音制御工学会春季研究発表会 H31.4 (豊洲シビックセンターホール)
平栗靖浩【近畿大学】、福島昭則【ニューズ環境設計】、森原崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】	ノイズマップによる北陸新幹線沿線の暴露反応関係推定の試み	日本騒音制御工学会春季研究発表会 H31.4 (豊洲シビックセンターホール)
横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛施設協会】、辻村壮平【茨城大学】、山崎徹【神奈川大学】	幹線道路からの自動車騒音に関する社会調査の現状と課題	音響学会騒音振動研究会 R1.5 (名城大学)
大場武【東海大学】、谷口無我【気象庁気象研究所】、西野佳奈、沼波望【東海大学】、代田寧【調査研究部】、角皆潤、伊藤昌稚【名古屋大学】、鋤柄千穂【東京海洋大学】	箱根山火山ガス化学組成および安定同位体比の時間変化	日本地球惑星科学連合 2019 年大会 R1.5 (幕張メッセ)
三島聡子、小澤憲司、中山駿一、菊池宏海、池貝隆宏【調査研究部】	神奈川県内の海岸及び河川のマイクロプラスチックに吸着した有機フッ素化合物の実態	第 28 回環境化学討論会 R1.6 (埼玉会館)
中山駿一、三島聡子【調査研究部】	神奈川県金目川におけるネオニコチノイド系農薬等の実態	第 28 回環境化学討論会 R1.6 (埼玉会館)
鈴木義浩、財原宏一【川崎市環境総合研究所】、三島聡子、大塚寛人、中山駿一【調査研究部】、福岡有希子、北代哲也、志村徹【横浜市環境科学研究所】、千室麻由子、井上雄一【川崎市環境総合研究所】*	神奈川県の大気環境中におけるクロルデン類の実態調査	第 28 回環境化学討論会 R1.6 (埼玉会館)
森長誠【防衛施設協会】、グエンツラン【島根大学】、下山晃司【航空環境研究センター】、森原崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】、矢野隆【熊本大学】	Highly annoyed のカットオフ値に関する基礎検討 ~ICBEN の 5 段階および 11 段階尺度による比較~	日本音響学会騒音振動研究会 R1.6 (日本大学)
来栖可奈、島瑞帆、日置尚之【日本大学】、長谷部勇太【調査研究部】、増田絢、松本淳【日本大学】	相模川水系ヨシノボリ属魚類におけるナガラシズコムシ <i>Myxobolus nagaraensis</i> 寄生状況	第 57 回日本大学獣医学会 R1.6 (日本大学)
横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛施設協会】、下山晃司【航空環境研究センター】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大学】	交通騒音の暴露反応関係に基づく基準値導出に関する基礎的検討	日本音響学会秋季研究発表会 R1.9 (立命館大学)
横島潤紀【環境情報部】、森原崇【石川高専】、松本泰尚【埼玉大学】	Combined effect of vibrations on railway noise annoyance	ICA2019 国際音響学会 R1.9 (Eurogress Aachen)
森原崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大学】*	A study on the influence of noise and vibration on the living environment along the Hokuriku Shinkansen railway	ICA2019 国際音響学会 R1.9 (Eurogress Aachen)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
平栗靖浩【近畿大学】、福島昭則【ニューズ環境設計】、森原崇【石川高専】、 <b>横島潤紀</b> 【環境情報部】	Estimating of dose-response relationship of Shinkansen railway noise using noise mapping	ICA2019 国際音響学会 R1.9 (Eurogress Aachen)
松本泰尚【埼玉大学】、 <b>横島潤紀</b> 【環境情報部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	Case examples of the measurement of vibration and annoyance response in residential buildings beside roads and railways	ICA2019 国際音響学会 R1.9 (Eurogress Aachen)
矢野隆【熊本大学】、森長誠【防衛施設協会】、 <b>横島潤紀</b> 【環境情報部】、Thulan Nguyen【島根大学】、Thao Linh Nguyen【Sound Traffic Environment Inc.】	Activity Disturbances by a Step Change in Aircraft Noise Exposure around Hanoi Noi Bai International Airport	ICA2019 国際音響学会 R1.9 (Eurogress Aachen)
<b>武田麻由子</b> 、 <b>小松宏昭</b> 、 <b>石割隼人</b> 【調査研究部】、福崎有希子、榎原正敬【横浜市環境科学研究所】、白砂裕一郎、安部拓海【横浜市環境創造局環境管理課監視センター】、高垣勇介【川崎市環境総合研究所】、田中佑典【川崎市健康安全研究所】(神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会)	神奈川県における有機指標成分濃度の実態把握及びPMF 法による発生源解析結果	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
<b>小松宏昭</b> 、 <b>武田麻由子</b> 【調査研究部】、熊谷貴美代、田子博【群馬県衛生環境研究所】(関東地方大気環境対策推進連絡会微小粒子状物質調査会議)	関東甲信静における PM <sub>2.5</sub> のキャラクター化(第 10 報)(2) -経年変化のまとめ-	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
<b>石割隼人</b> 、 <b>朝倉純</b> 、 <b>武田麻由子</b> 【調査研究部】	神奈川県における PM <sub>2.5</sub> 中のタンパク質の定量	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
<b>小松宏昭</b> 【調査研究部】、原政之【埼玉県環境科学国際センター】、浦西克維【奈良県景観・環境総合センター】、菅田誠治【国立環境研究所】	化学輸送モデルを用いた近年の PM <sub>2.5</sub> 濃度減少の解析について	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
山本勝彦、奥村智憲【大阪府立環境農林水産総合研究所】、 <b>小松宏昭</b> 【調査研究部】、清水厚、菅田誠治【国立環境研究所】	化学輸送モデルとライダー観測データを用いた近畿とその周辺地域上空のエアロゾル鉛直分布について	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
西村理恵【大阪府立環境農林水産総合研究所】、吉田天平【和歌山県環境衛生研究センター】、池盛文数【名古屋市環境科学調査センター】、梅津貴史【山形県環境科学研究センター】、柴田学【札幌市衛生研究所】、熊谷貴美代【群馬県衛生環境研究所】、 <b>武田麻由子</b> 【調査研究部】、寺本佳宏【三重県保健環境研究所】、平澤幸代【京都府保健環境研究所】、阪井裕貴【奈良県景観・環境総合センター】、浅川大地【大阪市立環境科	PMF 法を用いた PM <sub>2.5</sub> へのバイオマス燃焼影響の評価	第 60 回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
学研究センター】、中川修平【福岡県保健環境研究所】、菅田誠治【国立研究開発法人国立環境研究所】*		
梅津貴史【山形県環境科学研究センター】、柴田学【札幌市衛生研究所】、 <b>武田麻由子</b> 【調査研究部】、熊谷貴美代【群馬県衛生環境研究所】、池盛文教【名古屋市環境科学調査センター】、国分秀樹【三重県保健環境研究所】、西村理恵【大阪府立環境農林水産総合研究所】、平澤幸代【京都府保健環境研究所】、杉本恭利【奈良県景観・環境総合センター】、吉田天平【和歌山県環境衛生研究センター】、浅川大地【大阪市立環境科学研究センター】、中川修平【福岡県保健環境研究所】、菅田誠治【国立研究開発法人国立環境研究所】*	2016年10月22日におけるレボグルコサン高濃度事例の解析	第60回大気環境学会年会 R1.9 (東京農工大学)
<b>代田寧</b> 【調査研究部】、大場武【東海大学】、谷口無我【気象庁気象研究所】、十河孝夫、瀧沢倫明、原田昌武【温泉地学研究所】*	箱根山における火山活動活発化に伴う噴気組成の変化	日本火山学会秋季大会 R1.9 (神戸大学)
<b>横島潤紀</b> 【環境情報部】、筒井洋介【大気水質課】	厚木海軍飛行場周辺における航空機騒音の推移	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R1.11 (日本大学)
<b>横島潤紀</b> 【環境情報部】	欧州 WHO による環境騒音ガイドライン(2018)の解説 -風車騒音・レジャー騒音-	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R1.11 (日本大学)
<b>長谷部勇太</b> 、 <b>武田麻由子</b> 、 <b>菊池宏海</b> 【調査研究部】*	神奈川県環境科学センターにおける環境 DNA 調査の取組	環境 DNA 学会第2回大会 R1.11 (神戸大学)
<b>小澤憲司</b> 、 <b>三島聡子</b> 【調査研究部】	相模湾漂着マイクロプラスチックに吸着した PCB の実態及び発生源の推定	第46回環境保全・公害防止研究発表会 R1.11 (三重県総合文化センター内生涯学習センター)
田和佑脩、矢吹芳教、野呂和嗣【大阪府立環境農林水産総合研究所】、 <b>田澤慧</b> 【環境情報部】、中村智【大阪府立環境農林水産総合研究所】	PRTR制度における化学物質の排出量・移動量を用いた取扱量推定の検討	第46回環境保全・公害防止研究発表会 R1.11 (三重県総合文化センター内生涯学習センター)
<b>横島潤紀</b> 【環境情報部】	外部加振源による振動の測定	日本建築学会環境振動シンポジウム R2.1 (建築会館ホール)
<b>坂本広美</b> 【調査研究部】	相模湾沿岸域における漂着マイクロプラスチックの実態調査結果	第35回全国環境研究所交流シンポジウム R2.2 (大山記念ホール)
<b>長谷部勇太</b> 【調査研究部】*	県民調査員による相模川・酒匂川の生物調査結果	第26回市民環境活動報告会 R2.2 (かながわ県民センター)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
三島聡子、小澤憲司、中山駿一、菊池宏海、難波あゆみ【調査研究部】、片岡智哉、二瓶泰雄【東京理科大学】	引地川流域の用途地域によるマイクロプラスチック	第54回日本水環境学会年会 R2.3 (岩手大学※誌上開催)
横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】、下山晃司【航空環境研究センター】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大学】	交通騒音の曝露反応関係に基づく基準値導出に向けた検討ー高度の睡眠妨害反応ー	日本音響学会春季研究発表会 R2.3 (埼玉大学※誌上開催)

### (3) 人材育成

県・市町村環境担当職員研修等を行った。

事業名又は項目	概要
ア 大気水質等担当職員研修	<p>県及び市町村の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>①法令研修            主要な環境保全関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き等に関する17講座の研修を4日間 (R1.7.8(月)、9(火)、10(水)、12(金)) 行った<sup>※1</sup>。受講者延べ113人</p> <p>③技術研修            水質の簡易分析法、アスベストの観察実習、騒音及び臭気測定法の実習、に関する15講座の研修を4日間 (R1.6.27(木)、R2.1.15(水)、27(月)、28(火)) で行った<sup>※2</sup>。受講者延べ71人</p> <p>※1 県平塚合同庁舎で実施            ※2 環境科学センター、県立相模三川公園パークセンター(海老名市上郷)で実施</p>
イ 廃棄物対策担当職員研修	<p>県及び廃棄物処理法政令4市の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>①法令研修            廃棄物関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き、行政検査の方法等に関する15講座の研修を3日間 (R1.7.16(火)、17(水)、19(金)) 行った<sup>※1</sup>。受講者延べ79人</p> <p>②技術研修            石綿廃棄物の適正処理に関する講座・実習をR2.2.7(金)に行った<sup>※2</sup>。受講者8人</p> <p>※1 県平塚合同庁舎、かながわ環境整備センター(横須賀市芦名)で実施            ※2 環境科学センターで実施</p>
ウ 環境行政新任リーダー研修	<p>県のリーダー級職員を対象に、環境行政の主要政策と課題等に関する研修を1日間 (R1.7.11(木)) 行った<sup>※</sup>。受講者6人</p> <p>※ 県庁新庁舎議会第4会議室</p>
エ 中堅環境系技術職員スキルアップ研修	<p>新型コロナウイルス感染防止対応のため、令和元年度は中止した。</p>
オ 県・市町村環境学習研修	<p>県及び市町村の環境学習担当職員を対象に、環境教育や環境学習の実践等に関する研修をR1.5.17(金)に行った。受講者19人</p>
カ 市町村環境業務担当職員研修	<p>市町村の環境業務担当職員を対象に、水質調査委託業務管理に役立てるため分析操作及び分析値の精度管理手法を習得する講座の研修をR1.5.22(水)に行った。受講者8人</p>

事業名又は項目	概要
キ 研修派遣	環境省環境調査研修所主催研修に職員を派遣した。 機器分析研修 R1. 5. 20(月)～31(金) 菊池宏海 (Aコース)、難波あゆみ (Cコース) 気候変動対策研修 R1. 6. 3(月)～7(金) 田澤慧 ダイオキシン類環境モニタリング研修 (専門課程) 土壌コース R1. 11. 25(月)～12. 13(金) 中山駿一

#### (4) 依頼に基づく職員の派遣

市町村、団体等から要請のあった出前講座等への講師派遣、及び審議会等への委員派遣を行った。

事業	概要
ア 講師派遣	国、大学等の研修会、講習会への講師派遣を行った。9回 (表3.1.1-3)
イ 出前講座	学校、市民団体等の出前講座への講師派遣を行った。22回 受講者数 1249人 (表3.1.1-4)
ウ 審議会、委員会等への派遣	市町村の審議会、国の委員会、県の各種協議会等への委員派遣を行った。 <派遣先> ①市町村の審議会等 ・厚木市環境審議会 ・平塚市環境審議会 ・鎌倉市環境審議会 ・鎌倉市生活環境整備審議会 ・寒川町環境審議会 ・二宮町環境審議会 ・茅ヶ崎市環境審議会 ・箱根山火山防災協議会幹事会 ・箱根山火山防災協議会幹事会実務者会議 ・厚木愛甲環境施設組合ごみ中間処理施設整備検討委員会 ②国の設置した委員会等 ・環境リスク評価委員会曝露評価分科会 (国立研究開発法人国立環境研究所) ・化学物質環境実態調査分析法開発等検討会議系統別部会 (第二部会) ((一財)日本環境衛生センター【環境省委託】) ・化学物質環境実態調査LC/MSノンターゲット分析法・スクリーニング分析法検討会 ((一財)日本環境衛生センター【環境省委託】) ・新幹線鉄道騒音対策に関する検討委員会 ((株)ニューズ環境設計【環境省委託】) ・将来の車外騒音検討委員会 ((公社)自動車技術会共同研究センター【環境省委託】) ・嗅覚検査委員会 ((公社)におい・かおり環境協会【環境省委託】) ・臭気測定認定事業所審査委員会 ((公社)におい・かおり環境協会【環境省委託】) ・WHO 欧州地域事務局「欧州地域向けの環境騒音ガイドライン」に関する調査業務に係る検討委員会及び同ワーキンググループ (2件) ((公社)日本騒音制御工学会) ・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法に係る精度管理等検討委員会 ((一社)廃棄物資源循環学会【環境省委託】)

事業	概要
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第60回大気環境学会年会実行委員会（(公社)大気環境学会）</li> <li>・工場排水試験法に関するJIS開発 工場排水試験法(JIS0102)の体系整備検討分科会（(一社)産業環境管理協会【経済産業省委託】）</li> <li>・騒音計JIS原案作成委員会(JIS C 1516）（(一社)日本計量機器工業連合会【経済産業省委託】）</li> <li>・沿岸海域における漂流・海底ごみの実態把握検討会（三洋テクノマリン(株)【環境省委託】）</li> <li>・道路交通振動検討会（(株)エイト日本技術開発【環境省委託】）</li> </ul> <p>③県の協議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水源環境保全・再生かながわ県民会議（環境農政局水源環境保全課）</li> <li>・科学技術政策推進会議（政策局総合政策課）</li> <li>・丹沢大山自然再生委員会推進会議（環境農政局自然環境保全センター）</li> <li>・箱根山火山防災協議会火山ガス安全対策検討部会（くらし安全防災局災害対策課）</li> <li>・神奈川県青少年科学体験活動推進協議会（福祉子どもみらい局青少年センター）</li> <li>・神奈川県生活科学研究ネットワーク連絡会（くらし安全防災局消費生活課）</li> </ul>

表 3.1.1-3 講師派遣

所属	講師	演題等	派遣先（主催機関）	実施日
調査研究部	小松宏昭	環境科学センターの取り組む技術的課題	横浜国立大学	R1.5.16(木)
調査研究部	三島聡子	マイクロプラスチック研究の最前線	(公社)日本水環境学会 関東支部	R1.6.15(土)
調査研究部	長谷部勇太	夏休み金目川生き物観察会	金目川水系流域ネットワーク	R1.7.28(日)
調査研究部	長谷部勇太	水環境と川の中の生き物	金目川水系流域ネットワーク	R1.8.16(金)
調査研究部	長谷部勇太	生物多様性「魚・甲殻類」	ひらつか環境ファンクラブ	R1.9.8(日)
調査研究部	武田麻由子	衰退する丹沢の森：原因とこれから	神奈川大学共同研究「丹沢山塊における大気汚染物質の沈着と環境影響」研究グループ	R1.9.21(土)
調査研究部	坂本広美	水質調査考察会	茅ヶ崎市環境政策課	R1.12.12(木)
調査研究部	小松宏昭	神奈川県(丹沢)の大気環境と自然	大気環境学会植物分科会	R1.12.20(金)
環境科学センター	加藤洋	神奈川県における気候変動適応について	(一社)神奈川県環境計量協議会	R2.1.30(木)

表 3.1.1-4 出前講座

所属	講師	講座名	依頼元	実施日	参加者数
調査研究部	菊池宏海	共生社会構築に向けた次世代の育成～神奈川県 の河川の水質状況 (金目川水系を中心 に)～	湘南里川づくりみんなの 会	H31.4.17(水)	70人
環境情報部	田澤慧	環境問題を考えるとい うこと	湘南白百合学園中等・高 等学校	H31.4.22(月)	182人
調査研究部	坂本広美 平田太一 田澤慧 池貝隆宏 三島聡子 中山駿一	環境に関する実験への アドバイス	湘南白百合学園中等・高 等学校	R1.5.22(水) R1.5.23(木)	182人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック ってなんだろう	神奈川県食生活改善推進 団体連絡協議会	R1.6.13(木)	290人
調査研究部	三島聡子	マイクロプラスチック ってなんだろう？	神奈川県政モニターOB会	R1.6.18(火)	14人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック ってなんだろう？ ～相模湾に漂着するマ イクロプラスチック～	藤沢市明治地区生活環境 協議会	R1.6.27(木)	40人
調査研究部	菊池宏海	マイクロプラスチック 害ってなんだろう？～ 家庭でできることは～	相模原市立光が丘公民館	R1.7.20(土)	30人
調査研究部	坂本広美	ごみの分別とリサイク ル	瀬谷養護学校	R1.7.25(木)	50人
調査研究部	三島聡子 難波あゆみ	マイクロプラスチック って何だろう	大井町	R1.7.29(月)	12人
環境情報部	田澤慧	気候変動の影響とその 適応	東京電力ホールディング ス(株)リニューアブルパ ワー・カンパニー松田事 業所土木保守グループ	R1.7.29(月)	30人
調査研究部	菊池宏海 五十嵐恵美子	水質分析	綾瀬市環境保全課	R1.8.30(金)	7人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック ってなんだろう	新日本婦人の会 泉支部	R1.9.8(日)	40人
調査研究部	菊池宏海 難波あゆみ	マイクロプラスチック 発見体験	茅ヶ崎市役所環境政策課	R1.10.5(土)	24人
調査研究部	坂本広美 難波あゆみ	マイクロプラスチック って何だろう	平塚市環境部環境政策課	R1.10.15(火)	21人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック って何だろう	藤沢市生活環境連絡協議 会	R1.10.30(水)	70人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック って何だろう	(一社)神奈川県商工会 議所連合会	R1.11.26(火)	17人

所属	講師	講座名	依頼元	実施日	参加者数
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック って何だろう	生活協同組合パルシステム 神奈川ゆめコープ	R1. 11. 29(金)	30人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック って何だろう	六会地区生活環境協議会	R2. 1. 22(水)	40人
調査研究部	菊池宏海 五十嵐恵美子	マイクロプラスチック ってなんだろう	横須賀市北下浦コミュニ ティセンター	R2. 1. 22(水)	21人
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック ってなんだろう	株式会社オーエンス（寒 川町民センター指定管理 者）	R2. 1. 25(土)	20人
環境情報部	篠原才司	地球温暖化（気候変動） の影響と適応策 （市民向け）	伊勢原市環境政策課	R2. 1. 26(日)	40人
環境情報部	篠原才司	地球温暖化（気候変動） の影響と適応策 （事業所向け）	伊勢原市環境政策課	R2. 1. 28(火)	19人

## (5) 広報及び普及啓発

当センターの事業に関する広報等を行った。

事業名又は項目	概要
ア 記者発表等	募集案内1件及び行事案内1件の記者発表・参考資料送付を行った。 <発表事項> ① 河川のモニタリング調査の県民調査員を募集します（H31. 4. 16（火）） ② 令和元年度環境学習リーダー養成講座のご案内 未来の地球・子どもたちのために私たちができること（R1. 8. 29(木)）
イ 施設公開等	①環境科学センター施設公開 R1. 8. 1(木) 見学者 196人 ②子ども科学探検隊（県青少年科学体験活動推進協議会）R1. 8. 21(水) 参加者 13人 ③ 施設見学（随時）見学者392人（団体向け8回、個人向け6回）
ウ イベント参加	① かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア2019（県試験研究機関等紹介コーナー）R1. 7. 13（土）（主催 県（総合政策課）） ② ひらつか環境フェア2019 R1. 7. 14（日）～18（木）（主催 ひらつか環境フェア実行委員会、平塚市） ③ 第11回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム（ISAP2019）R1. 7. 30（火）～31（水）（主催 公益財団法人 地球環境戦略研究機関） ④ 湘南ひらつかテクノフェア R1. 10. 17（木）～19（土）（主催 湘南ひらつかテクノフェア2019実行委員会） ⑤ ひらつか環境パネル展 R2. 3. 4（水）～11（水）（主催 ひらつか環境ファンクラブ）
エ 年報の発行	「令和元年版(2019)年報 第51号」をR2. 2に発行し、当センターwebサイトに掲載した。
オ インターンシップ学生の受入れ	インターンシップ生として、大学生2人・高校生3人を受け入れた。
カ 職場体験の受入れ	各中学校で実施している職場体験学習に協力し、6名（3校）を受け入れた。

(6) 他機関との連携

県内及び全国の地方公共団体環境研究機関と交流・連携し、調査研究に関する技術の向上を図った。

事業名又は項目	概要
<p>ア 神奈川県市環境研究機関協議会</p>	<p>当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」において、情報交換や研究成果の合同発表会、研修会を開催した。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>① 定例会 第1回 H31.4.23(火) 神奈川県環境科学センター会議室 第2回 R2.2.3(月) かながわ県民センター会議室</p> <p>② 第43回環境研究合同発表会(再掲) R1.6.19(水) 横浜市開港記念会館 参加者192人</p> <p>③ 研修会 国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」の趣旨に鑑み中止。</p>
<p>イ 全国環境研協議会</p>	<p>全国環境研協議会(地方自治体の設置する環境保全及び公害防止施策に係る試験研究機関で組織)に参画し、機関相互の運営に関わる連絡、情報交換、共同調査研究等を行った。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>① 第48回総会 R2.1.21(火) (公財)都道府県センター 都道府県会館会議室</p> <p>② 研究・発表会等の事業 ・国立環境研究所とのⅡ型共同研究(10課題中3課題に参画) 「植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究」 「光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明」 「LC-MS/MSによる分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」</p> <p>③ 環境省の施策及び予算に対する要望書の提出</p> <p>④ 酸性雨全国調査への参画</p> <p>⑤ 全国環境研協議会会長賞(再掲) R2.1.21(火) (公財)都道府県センター 都道府県会館会議室 受賞者 三島聡子【調査研究部】</p> <p>また、関東甲信静エリアの16都県市の地方公共団体環境研究所で構成する関東甲信静支部において情報交換等を行った。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>① 支部総会 R1.11.22(金) クーポール会館(静岡市)</p> <p>② 専門部会 ・大気専門部会 R1.11.29(金) 群馬県庁会議室</p> <p>・水質専門部会 R1.11.1(金) 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 会議室 演題発表「漂着状況調査から得られた特徴的なマイクロプラスチックの一例」(菊池宏海【調査研究部】)</p> <p>・水質専門部会東京湾連絡会 R1.10.18(金) サッポロビール株式会社千葉工場(坂本広美【調査研究部】)</p>

事業名又は項目	概 要
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音振動専門部会 R1. 7. 9(火) 川崎生命科学・環境研究センター会議室 演題発表「厚木基地の航空機騒音について」(横島潤紀【環境情報部】)</li> <li>③ 全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰(再掲) R1. 11. 22(金) クーポール会館 受賞者 代田寧【調査研究部】</li> </ul>
ウ 神奈川県公害防止推進協議会	<p>横浜市、川崎市及び神奈川県で構成する神奈川県公害防止推進協議会の浮遊粒子状物質対策検討部会において、県内の微小粒子状物質の実態と発生源を把握するため、共同で試料採取及び分析、解析を行っている。H31(R1)年度は、H30年度に実施した秋冬期連続調査の成分分析結果及び常時監視データを用い、秋冬期のPM2.5の実態解明や高濃度現象の原因究明を行った。また、特に川崎市環境科学総合研究所周辺で高濃度となっていたアンモニアについて、多地点における実態調査を追試験した。</p>
エ 関東地方大気環境対策推進連絡会	<p>関東甲信静地方の1都9県7市で構成する関東地方大気環境対策推進連絡会において、微小粒子状物質の広域的な汚染実態と発生源を把握するため、H30年度の季節別の構成成分の把握や高濃度日を対象とした解析を行った。</p>

### 3. 1. 2 環境学習業務

環境学習講座の開催、環境学習施設の県民利用、環境学習情報の発信等に関する業務を行った。

#### (1) 環境学習講座の開催

環境問題や環境保全活動に関心のある県民向けに環境学習リーダー養成講座、環境活動講座及びスキルアップ講座を開催した。

事業名又は項目	概要		
ア 環境学習リーダー養成講座	地域で環境学習活動を行う人材（環境学習リーダー）の育成を目的として、意欲のある県民を対象に、環境問題の基礎知識や活動手法等に関する講座を開催した。 <実績> 受講者 24 人 修了者 11 人（講座の 8 割以上を受講した者）		
	開催日	講座のテーマ	講師
	R1. 10. 5(土)	環境科学センターの紹介と取組 神奈川の環境・所内見学	環境科学センター 環境活動推進課 課長 加藤陽一
		神奈川県における野生動物の生態とその対策	かながわ鳥獣被害対策支援センター マネージャー 坂口裕佳
	10. 19(土)	化学物質と環境	慶応義塾大学環境情報学部 准教授 吉崎仁志
		水源地保全と環境学習	特定非営利活動法人アサザ基金 代表理事 飯島博
	10. 29(火)	化学物質と環境	慶応義塾大学環境情報学部 准教授 吉崎仁志
	10. 26(土)	見えない空気を調べる化学実験	特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会 長村吉洋 他
		物が再資源化されるまで ～環境と経済 両方の視点～	(株)二見 代表取締役社長 須長勇太
	11. 5(火)	気候変動への適応 ～私たちへの影響とその対策～	環境科学センター 環境活動推進課 技師 田澤慧
11. 9(土)	廃棄物について	ミヤマ(株)横浜営業所 所長 山田昌幸	
	《施設見学》 産業廃棄物焼却炉の見学	(株)クレハ環境 ウエステックかながわ かながわ処理部 管理課	
11. 16(土)	気候変動への適応 ～私たちへの影響とその対策～	環境科学センター 環境活動推進課 技師 田澤慧	
	市民活動について	(一社)ソーシャルコーディネートかながわ 代表理事 手塚明美	

事業名又は項目	概 要																				
イ 環境活動講座	<p>環境保全活動に関心を持つ県民を対象に、活動を実践するうえで役立つ知識や技術に関する講座を開催した。</p> <p>&lt;実績&gt; 受講者総数 106人  第1回 24人 第2回 22人 第3回 22人 第4回 22人 第5回 16人</p> <table border="1" data-bbox="480 387 1444 1321"> <thead> <tr> <th data-bbox="480 387 671 425">開催日</th> <th data-bbox="671 387 1058 425">講座のテーマ (会場)</th> <th data-bbox="1058 387 1444 425">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 425 671 622">第1回 R1. 5. 18(土)</td> <td data-bbox="671 425 1058 622">食品ロスに新たな価値を～(株)日本フードエコロジーセンターの見学～ ((株)日本フードエコロジーセンター)</td> <td data-bbox="1058 425 1444 622">(株)日本フードエコロジーセンター総務部次長 高原淳 神奈川県環境部 資源循環推進課指導グループ グループリーダー 吉江博巳</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 622 671 853">第2回 7. 13(土)</td> <td data-bbox="671 622 1058 853">親子で学ぶ「田んぼと川の生き物ウォッチング」(環境科学センター及び平塚市内田んぼ、渋田川周辺)</td> <td data-bbox="1058 622 1444 853">環境科学センター調査研究部 主任研究員 長谷部勇太 環境科学センター 元職員 齋藤和久 市民活動団体地球っ子ひろば 山口洋子</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 853 671 1010">第3回 10. 2(水)</td> <td data-bbox="671 853 1058 1010">かながわの海を守る取り組み～神奈川県水産技術センターの見学～(神奈川県水産技術センター)</td> <td data-bbox="1058 853 1444 1010">水産技術センター 主任研究員 加藤健太 水産技術センター 主任研究員 臼井一茂</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1010 671 1167">第4回 12. 10(火)</td> <td data-bbox="671 1010 1058 1167">SDGs への取組と環境印刷～(株)大川印刷 本社・工場の見学～((株)大川印刷 本社・工場)</td> <td data-bbox="1058 1010 1444 1167">(株)大川印刷 代表取締役社長 大川哲郎</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1167 671 1321">第5回 R2. 2. 20(木)</td> <td data-bbox="671 1167 1058 1321">教員になったとき役立つ環境学習講座～水と空気をテーマに考える～(関東学院大学金沢八景キャンパス)</td> <td data-bbox="1058 1167 1444 1321">特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 理事 浜辺謙吉</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	講座のテーマ (会場)	講師	第1回 R1. 5. 18(土)	食品ロスに新たな価値を～(株)日本フードエコロジーセンターの見学～ ((株)日本フードエコロジーセンター)	(株)日本フードエコロジーセンター総務部次長 高原淳 神奈川県環境部 資源循環推進課指導グループ グループリーダー 吉江博巳	第2回 7. 13(土)	親子で学ぶ「田んぼと川の生き物ウォッチング」(環境科学センター及び平塚市内田んぼ、渋田川周辺)	環境科学センター調査研究部 主任研究員 長谷部勇太 環境科学センター 元職員 齋藤和久 市民活動団体地球っ子ひろば 山口洋子	第3回 10. 2(水)	かながわの海を守る取り組み～神奈川県水産技術センターの見学～(神奈川県水産技術センター)	水産技術センター 主任研究員 加藤健太 水産技術センター 主任研究員 臼井一茂	第4回 12. 10(火)	SDGs への取組と環境印刷～(株)大川印刷 本社・工場の見学～((株)大川印刷 本社・工場)	(株)大川印刷 代表取締役社長 大川哲郎	第5回 R2. 2. 20(木)	教員になったとき役立つ環境学習講座～水と空気をテーマに考える～(関東学院大学金沢八景キャンパス)	特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 理事 浜辺謙吉
開催日	講座のテーマ (会場)	講師																			
第1回 R1. 5. 18(土)	食品ロスに新たな価値を～(株)日本フードエコロジーセンターの見学～ ((株)日本フードエコロジーセンター)	(株)日本フードエコロジーセンター総務部次長 高原淳 神奈川県環境部 資源循環推進課指導グループ グループリーダー 吉江博巳																			
第2回 7. 13(土)	親子で学ぶ「田んぼと川の生き物ウォッチング」(環境科学センター及び平塚市内田んぼ、渋田川周辺)	環境科学センター調査研究部 主任研究員 長谷部勇太 環境科学センター 元職員 齋藤和久 市民活動団体地球っ子ひろば 山口洋子																			
第3回 10. 2(水)	かながわの海を守る取り組み～神奈川県水産技術センターの見学～(神奈川県水産技術センター)	水産技術センター 主任研究員 加藤健太 水産技術センター 主任研究員 臼井一茂																			
第4回 12. 10(火)	SDGs への取組と環境印刷～(株)大川印刷 本社・工場の見学～((株)大川印刷 本社・工場)	(株)大川印刷 代表取締役社長 大川哲郎																			
第5回 R2. 2. 20(木)	教員になったとき役立つ環境学習講座～水と空気をテーマに考える～(関東学院大学金沢八景キャンパス)	特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 理事 浜辺謙吉																			
ウ スキルアップ講座	<p>環境学習リーダーのスキルアップを目的に開催した。</p> <p>&lt;実績&gt;  第1回 受講者40人 第2回 受講者37人</p> <table border="1" data-bbox="480 1447 1444 1765"> <thead> <tr> <th data-bbox="480 1447 671 1485">開催日</th> <th data-bbox="671 1447 1058 1485">講座のテーマ</th> <th data-bbox="1058 1447 1444 1485">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 1485 671 1641">第1回 R1. 7. 11(木)</td> <td data-bbox="671 1485 1058 1641">生物の多様性と私たちの生活</td> <td data-bbox="1058 1485 1444 1641">国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1641 671 1765">第2回 12. 12(木)</td> <td data-bbox="671 1641 1058 1765">急がれる気候変動への対策</td> <td data-bbox="1058 1641 1444 1765">環境省関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	講座のテーマ	講師	第1回 R1. 7. 11(木)	生物の多様性と私たちの生活	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一	第2回 12. 12(木)	急がれる気候変動への対策	環境省関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満									
開催日	講座のテーマ	講師																			
第1回 R1. 7. 11(木)	生物の多様性と私たちの生活	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一																			
第2回 12. 12(木)	急がれる気候変動への対策	環境省関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満																			

## (2) NPO と連携した環境学習事業の実施

かながわサイエンスサマー事業として、当センターの環境学習講座の修了者が中心となって活動している（特非）神奈川県環境学習リーダー会と共催で、小学生を対象とした夏休み子ども環境体験教室を開催した。講師はリーダー会会員が行った。参加総数 306 人

開催日	内 容	参加者数
R1. 8. 5(月)	人工の雲をつくろう	41 人
8. 5(月)	つかめる水を作ろう	33 人
8. 6(火)	身近なもので電池を作ろう	20 人
8. 6(火)	森の木エクラフトで森を考えよう	18 人
8. 7(水)	汚れた水をきれいにしよう	40 人
8. 7(水)	手づくり顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう	36 人
8. 8(木)	見えない空気は何でできている？	33 人
8. 8(木)	発泡スチロールでオリジナル表札作り	36 人
8. 9(金)	環境地球儀を作ろう	26 人
8. 9(金)	太陽の光で回るソーラー風車を作ろう	23 人

## (3) 環境学習施設利用者支援

環境学習施設及び環境学習用資機材の貸出を行った。

事業名又は項目	概 要															
ア 環境学習施設の貸出	<p>環境学習施設 4 施設を貸出するとともに、実験指導などの利用者の支援を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名称</th> <th>主な貸出先等</th> <th>施設利用数*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境学習室</td> <td>環境保全団体（自主講座の拠点施設として利用）</td> <td>1,162 人（88 件） 【688 人（47 件）】</td> </tr> <tr> <td>実習室</td> <td>環境保全団体（pH、COD 等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用）</td> <td>1,263 人（71 件） 【644 人（39 件）】</td> </tr> <tr> <td>環境資料室</td> <td>県民</td> <td>0 人（0 件）</td> </tr> <tr> <td>環境活動室</td> <td>環境保全団体</td> <td>13 人（4 件）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※【 】内は、当センター主催講座における件数で内数。 環境資料室および環境活動室は 6 月末で廃止。</p>	施設名称	主な貸出先等	施設利用数*	環境学習室	環境保全団体（自主講座の拠点施設として利用）	1,162 人（88 件） 【688 人（47 件）】	実習室	環境保全団体（pH、COD 等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用）	1,263 人（71 件） 【644 人（39 件）】	環境資料室	県民	0 人（0 件）	環境活動室	環境保全団体	13 人（4 件）
施設名称	主な貸出先等	施設利用数*														
環境学習室	環境保全団体（自主講座の拠点施設として利用）	1,162 人（88 件） 【688 人（47 件）】														
実習室	環境保全団体（pH、COD 等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用）	1,263 人（71 件） 【644 人（39 件）】														
環境資料室	県民	0 人（0 件）														
環境活動室	環境保全団体	13 人（4 件）														
イ 環境学習用資機材の貸出	<p>環境学習用のビデオ・DVD、環境測定用機器、観察機器等の貸出を行った。 実績 延べ 52 台（43 件）</p>															

## (4) 環境学習情報の提供

環境学習のためのホームページを運用し、環境学習に関する情報を発信した。

事業名又は項目	概 要
ア 地球環境学習ひろば	<p>環境学習講座開催情報、施設利用案内、教材ダウンロード、環境活動人材情報検索等の情報を提供した。アクセス数 44,234 件 URL <a href="http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyougakushu/index.html">http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyougakushu/index.html</a></p>

### 3. 1. 3 神奈川県気候変動適応センター

気候変動適応法に基づく気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行った。

#### (1) 情報の収集、整理、分析

気候変動に関連する公開情報等を収集整理するとともに、関係機関、有識者及び市町村にヒアリングを行った。また、小学校の百葉箱での温度測定により、県内における夏期気温分布を把握した。

事業名又は項目	概要
ア 収集・整理した既存情報	次に掲げる情報等を収集・整理し、神奈川県気候変動適応センター（以下、「県適応C」という。）のホームページに掲載した。 ○過去の気象情報 気象庁過去の気象データや農業技術センターの測定している気象データを、収集・整理し、県内の過去の気象状況を把握した。 ○過去の気象災害の被害等の情報 気候変動により今後影響が大きくなると考えられる台風に関して、これまで県内に被害をもたらした主な台風の概要を収集・整理した。 ○熱中症関連情報の収集・整理 環境省熱中症予防情報サイトの過去の暑さ指数や消防庁熱中症情報の熱中症救急搬送者数等から、県内のデータを収集・整理した。
イ 関係機関等へのヒアリング	関係機関、有識者及び市町村にヒアリングを行い、気候変動適応に係る取組や知見・ニーズ等について情報を収集した。 ○市町村 横須賀市、二宮町、南足柄市、海老名市に各市町での気候変動適応に関する取組状況や県適応Cに求める情報等について、ヒアリングを行った。 ○県関係機関 水産技術センター、畜産技術センター、農業技術センターで、気候変動に関連する調査研究等を行う職員に対して、取組状況等のヒアリングを行った。 ○有識者 横浜国立大学教育学部 筆保教授、東京工業大学環境社会理工学院 木内教授及び東京理科大学土木工学科 仲吉准教授に、気候変動に関する研究や取組の状況及び知見について、ヒアリングを行った。
ウ 夏期気温測定	横浜市、川崎市と連携し、県内全域の気温観測によるヒートアイランド現象の実態把握として、小学校の百葉箱での夏期気温測定を行い、県内における夏期気温分布を把握した。

#### (2) 情報の提供及び技術的助言

県民向け講座、出前講座及び業績発表等の場を活用し、気候変動適応や県適応Cの取組の紹介を行い、気候変動適応の認知度向上を図った。

事業名又は項目	概要									
ア 講座・講演会等での講師	県民向け講座や講演会において、気候変動適応に関する講義を行った。 ○出前講座「気候変動の影響とその適応」2件（再掲） <table border="1" data-bbox="529 1856 1425 2016"> <thead> <tr> <th>依頼元</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京電力ホールディングス株式会社</td> <td>R1. 7. 29(月)</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>伊勢原市環境政策課</td> <td>R2. 1. 26(日)・28(火)</td> <td>計59人</td> </tr> </tbody> </table>	依頼元	実施日	参加人数	東京電力ホールディングス株式会社	R1. 7. 29(月)	30人	伊勢原市環境政策課	R2. 1. 26(日)・28(火)	計59人
依頼元	実施日	参加人数								
東京電力ホールディングス株式会社	R1. 7. 29(月)	30人								
伊勢原市環境政策課	R2. 1. 26(日)・28(火)	計59人								

事業名又は項目	概 要																				
	<p>○環境学習リーダー養成講座「気候変動への適応～私たちへの影響とその対策～」(再掲)</p> <table border="1" data-bbox="529 306 1425 427"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かながわ県民センター</td> <td>R1. 11. 5(火)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>環境科学センター</td> <td>R1. 11. 16(土)</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○神奈川県民間企業向け気候変動適応セミナー(環境計画課主催)での講演(「神奈川県の気候変動適応について」)</p> <table border="1" data-bbox="529 506 1425 665"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜会場(かながわ労働プラザ)</td> <td>R1. 8. 26(月)</td> <td>82人</td> </tr> <tr> <td>小田原会場(小田原お堀端コンベンションホール)</td> <td>R1. 10. 15(火)</td> <td>49人</td> </tr> </tbody> </table>			会場	実施日	参加人数	かながわ県民センター	R1. 11. 5(火)	3人	環境科学センター	R1. 11. 16(土)	14人	会場	実施日	参加人数	横浜会場(かながわ労働プラザ)	R1. 8. 26(月)	82人	小田原会場(小田原お堀端コンベンションホール)	R1. 10. 15(火)	49人
会場	実施日	参加人数																			
かながわ県民センター	R1. 11. 5(火)	3人																			
環境科学センター	R1. 11. 16(土)	14人																			
会場	実施日	参加人数																			
横浜会場(かながわ労働プラザ)	R1. 8. 26(月)	82人																			
小田原会場(小田原お堀端コンベンションホール)	R1. 10. 15(火)	49人																			
イ 取組等の発表	<p>業績発表会(口頭発表)や農林水産発表会(ポスター発表)などの場で、気候変動適応に関する普及啓発や県適応Cの取組の紹介を行った。また、環境科学センター施設公開において、打ち水等の暑熱対策の紹介を通じて、気候変動適応に関する普及啓発を行った。</p>																				